がんばろう南房総

南房総の風

［発行］
南房総教育事務所 指導室
令和４年 ４月１８日
第 １ 号
文責 学力向上班

授業改善のための「セルフチェックシート」R4～をご活用ください！

管内小・中学校において実施した「令和3年度教育活動等に関するアンケート」の結果、昨年度の「セルフチェックシート」の活用率は94.2%でした。
更に使いやすくなるようにリニューアルしましたので、今年度も、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のために、「セルフチェックシート」をご活用ください。

【改訂のポイント】

○指導者が自己評価を行うチェック項目を、児童生徒の姿から授業を振り返る文言にしました。
○指導者が自己評価をして、「目指す児童生徒の姿に到達していなかった」という場合に、「どうすればよかったのか」を考えるために、＜改善のヒント＞や＜手立てのヒント＞を掲載しました。
○「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムの4つの過程から、本時で行う部分を選択の上、☑を入れてその部分の振り返りを行うことができるようにしました。

【実践モデルプログラムの4つの過程】

まとめあげる
思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる過程です。「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすか考えることで、学んだことを確実に身に付けるとともに、新たな疑問をもち、次の学習への更なる意欲や見通しにつなげる過程です。

見いだす
今までの学習内容や提示された資料等を基に疑問をもち、本単元（本時等）で解決していく課題を明確にする過程です。また、「これからの学習がどのような意味をもち、何を目指しているものなのか」等を意識しつつ、主体的に学習に取り組もうとする過程です。

自分で取り組む
解決の見通しをもち、自分で考え、粘り強く課題に取り組む過程です。また、「見方・考え方」を働かせながら、収集した情報を調べたり、自分の考えを形成して文章や言葉、図、式等で表現したり、自分の思いや考えを基に作品等を創造したりする過程です。

広げ深める
「見方・考え方」を働かせながら自分の考えを伝え、友達の考えを聞いて疑問点を問い直すなど、互いに学び合うことを通して、多様な考えを理解する過程です。また、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、新たな考えに気付いたりすることを通して、より質の高い学びとする過程です。

「実践モデルプログラム」は、毎時間その全てを行うことを推奨するものではありません。毎時間全てを行うと、かえって形式的な授業となってしまう可能性があります。１単位時間で行う場合もあれば、複数時間で行う場合もあり、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した上で行います。大切なことは、単元計画や授業計画に意図的・計画的に「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」を位置付けることです。
（出典：千葉県教育委員会 「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム リーフレット）

☆裏面、授業改善のための「セルフチェックシート」R4～（活用例）も、ご覧ください。

活用例

授業改善のための「セルフチェックシート」 R4～

9月15日（木）	5年5組	指導者	南房 教子
教科 算数	単元名	整数（8/11）	

4：十分できた　3：概ねできた　2：あまりできなかった　1：できなかった

授業前		**指導者は、本時（本単元）を通して資質・能力が身に付いた児童生徒の姿をイメージしましたか？**	4・③・2・1
		〈改善のヒント〉 「加減の計算を通して偶数・奇数の性質に気付き、筋道立てて説明する」 ・本時（本単元）で目指す児童生徒の具体的な姿を、目標に基づいて想定する。としたが、筋道立てて、という姿まで到達しなかった。 ・児童生徒が働かせるべき「見方・考え方」を理解する。 ・児童生徒に資質・能力が身に付いたか評価する手立てを準備する。	
本時で行った過程に☑を入れて授業を振り返りましょう	□見いだす	**児童生徒が自ら問いを見いだしたり、解決していいく課題を明確にしたりしていましたか？**	4・3・2・1
		〈手立てのヒント〉 ・児童生徒が自ら疑問をもち「主体的な学び」を実現することができるような資料や発問を準備する。 ・本時の学習の手助けとなる既習事項を確認する。	
	□自分で取り組む	**児童生徒が自分の考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりすることができましたか？**	4・3・2・1
		〈手立てのヒント〉 ・課題を解決する見通しがもてるように、既習の内容との相違点や学習のめあてを児童生徒とともに確認する。 ・「見方・考え方」を働かせながら必要な情報を収集して調べることができるよう、ＩＣＴ環境や資料等を用意する。 ・「深い学び」が実現できるよう、取り組む時の視点や思考の進め方を指導する。	
	☑広げ深める	**児童生徒が多様な考えを理解したり、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、新たな考えに気付いたりしましたか？**	4・③・2・1
		〈手立てのヒント〉 例として書き出した式のパターンが少なかったため、話し合いの際、関係性に気付く所まで至らないグループがあった。 ・自分の考えを根拠をもとに伝えられるよう、伝えるときに意識すべきことを指導する。 ・「対話的な学び」が実現できるよう、児童生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等の場面を設定する。 ・知識を相互に関連付けたり、新たな考えに気付いたりできたか確認し、個に応じた助言をする。	
	☑まとめあげる	**児童生徒が学んだことを確実に身に付けるとともに、新たな疑問をもちましたか？**	4・③・2・1
		〈手立てのヒント〉 「カードが増えても同じことがいえるのか」となげかけた。 ・学習活動や思考の過程を振り返り、「自分の言葉で学習のまとめを書く」場面を設定する。 ・学んだことを確実に身に付けるために、練習問題に取り組む。 ・「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすかを考える場面を設定する。 ・学習活動を次につなげて「主体的な学び」が実現できるよう、新たな疑問をもつような発問をする。	

（授業改善メモ）

「筋道立てて説明する」姿にまで到達させるためには、①見いだすの過程で たすはたす、ひくはひくにまとめて式を立てる 既習を全員で確認しておく ②自分で取り組むの過程で 式のパターンをなるべく多く挙げるように助言したり時間を確保したりする ことの2点が必要であった。 ただ、広げ深めるの過程でグループごとに考えを発表したことにより、性質に気付き、より深く理解する姿が見られたことは良かった。